

第5回佐賀市障がい者プラン等策定委員会

日時：11月7日（火）19：00～
場所：大財別館4階4-1・4-2会議室

1 開会

（省略）

2 部長あいさつ

（省略）

3 議事

（1）基本理念について【資料1】【資料5】

委員：基本理念案をいくつか考えてきたので共有する。

1案目「ふらっとシティさが」

2案目「フラットな関わり ふらっとにつながる」

3案目「ムツゴロウ型共生社会」である。

資料5の佐賀市案を含め協議し、「フラットな関わり ふらっとにつながる」に決定

（2）佐賀市障がい者プラン（総論）案について【資料1】【資料2】

意見無し

（3）佐賀市障がい者プラン（各論）案について【資料3】

委員：全体的にわかりやすい言葉ですっと入ってくる表現だと思うが、11ページ、「インクルーシブ教育の推進」の内容の部分において、「機運の醸成」についてももう少し分かりやすく表現頂きたい。

事務局：担当課と協議して修正したい。

委員：9ページ、「（2）障がい児支援の推進」について、教育委員会の所管の内容も含まれているのか。含まれるのであれば教育関係の課とも一緒に取り組んでいくこととして、教育委員会とも連携して作られているのか。

事務局：教育委員会も含めて関係各課が確認している。

委員：19ページのボランティアの参画について、障がいがあるからといってボランティアできない

ということではなく、障がい者もボランティアとして参画できるので、計画内においてご検討頂きたい。

事務局：手帳所持者の方でも地域の活動、ボランティア活動に参加している。障害者相談員はまさにそうであり、検討していきたい。

委員：17ページ、主な取組の「スポーツ・レクリエーション活動の振興」の1つ目の●の文章内について「佐賀県パラスポーツ大会」ではなく「佐賀県パラスポーツ協会」ではないか。

事務局：修正する。

委員：「努めます」、「行います」、「推進します」といった言葉の使い分けがされているが、意味はあるのか。

事務局：ニュアンスの違いである。

(4) 佐賀市障がい者プラン（計画の推進体制）案について【資料4】

委員：今日の中でこの件が一番大事だと思う。プランは計画であり、実行することが必要。周知啓発という文言を読んだ際に本人、家族、地域、事業所等が互いに連携して協力することが必要ということはそうだが、具体的にどう連携・協力していくか記載がない。具体的な方法についてもう少し明確にしないと、できなくてもどこにも責任が生じない。誰が主体的に進めていくかわからなかった。具体的に4番の進捗管理については具体的にどう把握・点検を行って評価していくのか。理想的なことを書いてだけで終わらないように。

事務局：1つ目のそれぞれの役割については、どのように記載すればいいのか考えていきたい。2つ目の進捗管理については全庁にわたることで、全庁に照会していきたい。

委員：具体的に1つ1つ評価・点検する場が必要ではないか。作ってしまって終わりとはならないように。評価の仕方、具体的な推進方法について明文化しないまでも、説明してほしい。

事務局：他市町の計画も参考にしつつ検討していきたい。

委員：高齢福祉計画の会議でも話があったが、障がい者プランとの整合性をとって行うという議論があった。担当課の明確化等があれば、取組ができていくか1年ごとに見えてきて、より分かりやすいのではと思う。周知啓発については明確にしておくといい。他の事業所と連携はどのようにしていくか詰めればいいのかと。他の市町村の計画を確認して検討頂きたい。

4 その他

- 委員：PDCAについては、自分たちの事業所でも心がけていて、佐賀市でも進めていただきたい。
コロナも収束し、次年度から短期入所や日中一時の再開も検討し、地域の利用者を支援していきたい。通所の在宅支援を見ても家族の支援も必要であるが、私たち事業所としてもそのあたりが弱いと感じているところ。佐賀市と協力して進めていく場があれば。
- 委員：この4年間小学校とも交流できていない。5類に移行しても学校現場も元の状態に戻せていない。夏休みに市内の中学校の職場体験を引き受けた。就職に前向きな感想もあり、人材確保にもつながっていくと感じるとともに、障がいへの理解も進んでいくと感じたので、このプランを進めていく中で教育委員会と連携していきたい。
- 委員：全体を通してみて、なかなかすぐ実行することが難しいと感じるところもあるが、声を上げないと実行できない。この計画を実行していくための手段として考えたときに、評価、見直し等が非常に重要と感じている。見直しについてはまた我々の策定委員会が集まって話していくのかなと感じた。計画を実行していく中で気づく事もあると思うし、見直しが必要な時期もやってくると思う。アウトカム（成果・効果）に向けて、進捗状況の把握や評価をしっかりとやっていく中で、つながっていければと思う。
- 委員：PDCAということでチェックの部分で我々が関わることが重要で、行政からこういったことを協力してほしいということがあっても良いと思う。共生ということであれば、上下関係なく、フラットに自分自身も関わりながら連携してチェックをしていきたいと思う。佐賀市にも福祉の歴史があるということを知って、計画を佐賀市らしいものにできればと思った。
- 委員：乳幼児の障がいの早期発見、1歳半検診の前の相談体制が充実できればと思う。とりあえず1歳半検診まで待つと言われる人もいるので、もっと早期の相談窓口も必要なのでは。
- 委員：評価、進捗の話がでたが、プランを立てた私たちが評価をしていくという積極的な意見がでてよかった。いろんな方が参画しやすかったり、みんなで進捗状況を共有して協力するという状況を作るためにも、次の改定のときにチェックするのではなく、具体的に評価する仕組みや場があれば積極的にかかわれるのではないかと感じた。
「フラット」という言葉については、プランの中で意味をつけていければと思った。佐賀市は障がい福祉に熱心に取り組んでもらっていると感じるが、佐賀市としての「フラット」とは何か、意味付けができればよいなと感じた。
- 委員：フラットについては言葉の語彙を再度確認してほしい。
知り合いの厚労省の職員に話を聞いたが、障がい者プランはすべての自治体がつけているが、どの計画も似たような計画だと話が出ていた。その中で佐賀市においては、意見を反映してプランを作成していただいたので感謝したい。佐賀市の障がい者プランには熱意を感じるが、これは委員と事務局とがチームとなって作ったもの。次の計画を作る際に、良い結果になったと思われるものにしていただければ。計画は作った後からスタートとなる。

事務局：進捗管理についてご意見いただいた分について、こういった体制、仕組みになるかは今後検討していきたい。

5 閉会